

廿日市市 生涯学習ビジョン

はつかいちの学びのインフラづくり



令和8年4月
廿日市市教育委員会

目次 Contents

はじめに	1
1. 策定の目的	1
2. はつかいちの学びのインフラづくりとは	2
第1章 ビジョンの策定にあたって	3
1. 生涯学習とは	3
(1) 生涯学習の定義と役割	3
(2) 社会教育の定義と役割	4
2. 策定の背景	5
(1) 社会状況や国の動き	5
(2) 廿日市市の状況	8
第2章 ビジョンができるまで	9
1. 策定に向けた取組　ーみんなで考えたビジョンー	9
(1) 生涯学習社会づくりのためのアンケート	9
(2) 職員研修会	10
(3) 市民ワークショップ	11
(4) 市民アイデアの募集	12
2. 廿日市市の特徴	13

第3章 廿日市市が目指す生涯学習の姿 15

1. 目指す姿	15
2. 目指す姿の実現に向けて	17
(1) 学びを応援する ー学びの環境を整えるー	17
(2) つながるしくみや場をつくる ー人をつなぎ、学びの輪を広げるー	18
(3) 学び・つながりが生きるまちづくり ー学びを地域の力に変えるー	19

第4章 ビジョンの推進にあたって 21

1. 他の計画との関係	21
(1) 廿日市市総合計画との関係	21
(2) 教育に関する計画との関係	21
(3) 生涯学習に関する計画との関係	21
2. 推進体制	22
(1) 多様な主体との連携	22
(2) 分野横断的な連携	22
(3) 庁内連携会議・委員会などでの意見集約	23
3. 推進状況の把握	24

おわりに 24

コラム 25

何にもしない合宿	25
倶楽部がちゃがちゃバンド	26
art201	27

資料 28

はじめに

令和の時代を迎えて以降、急速に進む少子高齢化や情報化、グローバル化、人生100年時代の到来など、社会の構造が大きく変化しています。

こうした中、近年、生涯学習・社会教育においても、ウェルビーイング※の実現、学び直しやリカレント教育※、ICTの活用、地域共生社会の実現、「社会の担い手」から「社会の創り手」への転換など、新たな視点や考え方が加わってきています。

生涯学習や社会教育には、従来から一人ひとりの生活と地域づくりを支える「学びと実践」の機会と場を提供する役割が求められてきました。加えて、防災、福祉、産業振興などのさまざまな分野の地域課題の解決に向けた持続的な地域コミュニティを維持するために、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を進めることが生涯学習や社会教育の役割として重要視されるようになってきました。

「廿日市市生涯学習ビジョン」は、市民一人ひとりが、学びを通じて生涯にわたって自己の能力を高め、人生を豊かにしていくことはもちろん、地域全体で学びを支えるしくみを整え、ともに学び合う生涯学習社会づくりを進めていくため、おおむね今後10年間の基本的な方向性を示す羅針盤となるものです。

1. 策定の目的

現在、本市においても、人口減少やライフスタイルの多様化に伴い、人と人とのつながりの希薄化が進み、地域の担い手不足や地域の教育力の低下が懸念されています。一方で、社会教育施設をはじめ各分野での学習機会の提供により、個人の学びの環境は充実してきました。

これまで本市では、教育委員会と市長部局が連携し、生涯学習とまちづくりを一体的に推進してきましたが、近年、市民センターのあり様が多様化するなど、生涯学習や社会教育をめぐる環境が変化しています。

そこで、生涯学習・社会教育の価値を改めて見つめ直し、本市のこれまでの取組や特色を生かすとともに将来を見据えた生涯学習のあり方やまちづくりに果たす役割、社会教育施設の役割や取組の根幹となる考え方などを示し、市民や市職員が目指す姿やそれぞれの役割を共有することを目的としてこのビジョンを策定します。

- 廿日市市の強みや特色を生かし、市民とともに生涯学習を推進します。
- 社会の変化・時代に即した廿日市市の生涯学習のあり方を示し、市民と市で共有します。
- 市民センター、図書館、資料館などの社会教育施設の役割や取組の根幹となる生涯学習の基本的な考え方を示します。

※ウェルビーイング 個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。

※リカレント教育 学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育を繰り返すこと。

2. はつかいちの学びのインフラづくりとは

「インフラ」とは、インフラストラクチャーの略で、「社会や経済、生活を支える基盤」のことです。一般的には、電気やガス、水道、道路、公共交通機関、公共施設などハード整備が連想されますが、それがないと生活が成り立たないものを指します。

孤立化、人間関係の希薄化などが社会課題とされる現在では、これらの生活インフラに加えて、“人と人のゆるやかな関係づくり”も生活上なくてはならない基盤として注目されるようになりました。

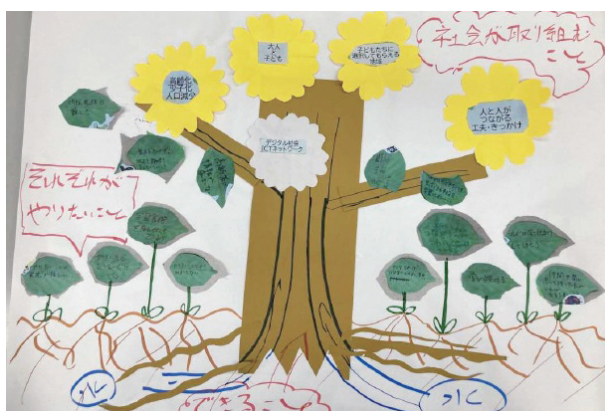
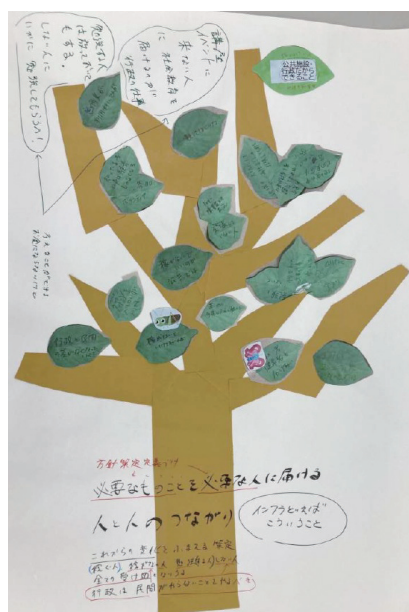
「社会教育は“インフラ”=生活する上で不可欠な社会基盤である」

ビジョン策定にあたって開催した研修会で、まず私たちはこの言葉に出会いました。

策定を進める中で、社会の担い手づくりや地域への愛着醸成といった地域の教育力を地域自身が発揮するためには、人と人が良好な関係でつながった状態があることや誰もが気軽に立ち寄れる開かれた居場所があること、一人ひとりに居心地のよい場があることなどが重要であることも学んできました。

このビジョンの副題である「学びのインフラづくり」とは、学びや対話を重ねることで地域に信頼と共感の関係を生み出す土壌を耕すこと、すなわち“まちづくりの基盤づくり”を表します。学び合う地域では、安心感・支え合いなどが生まれ、自分ごととして地域に関わる人が増えたり、ふるさとへの愛着や市民の力が高まります。そのためには、市の責任において、誰もが気軽に学ぶことができる環境を整えることに加えて、基盤を維持・発展していくことも必要です。

少子高齢化、人口減少、気候変動、デジタル化、グローバル化など先の見えない社会状況の中で誰もが安心して心豊かに暮らせる持続可能な社会づくりを目指して、これまでの生涯学習の取組や各地域の特色を生かした甘日市らしい“学びを通じた人づくりやつながりづくり”=「はつかいちの学びのインフラづくり」に取り組んでいきます。



第1章 ビジョンの策定にあたって

1 生涯学習とは

(1) 生涯学習の定義と役割

「生涯学習」とは、「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」できる学習で、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など、さまざまな場や機会において、人々が生涯に行うあらゆる学習のことです。

また、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される社会を指すものとして「生涯学習社会」という言葉も用いられます。

教育基本法 第3条(生涯学習の理念)

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

生涯学習の役割には、職業や生活に必要な知識や技能を身につけ、生きがいづくりや自己実現を図るためのもの、他者との学び合い・教え合いにより豊かな学びにつながるものなど幅広いものがあります。予測不能な現代社会において、生涯学習を生かした社会を実現することで、私たちの暮らしの豊かさや持続可能なまちづくりにつながっていくことが期待されます。

(2) 社会教育の定義と役割

「社会教育」とは、学校・家庭以外の広く社会で行われる教育です。公民館など公的な施設で開催される講座や青少年向け事業、民間で行われる通信教育やカルチャースクール、子育てサークルに参加して子育てについて話し合うことなどが社会教育に入ります。

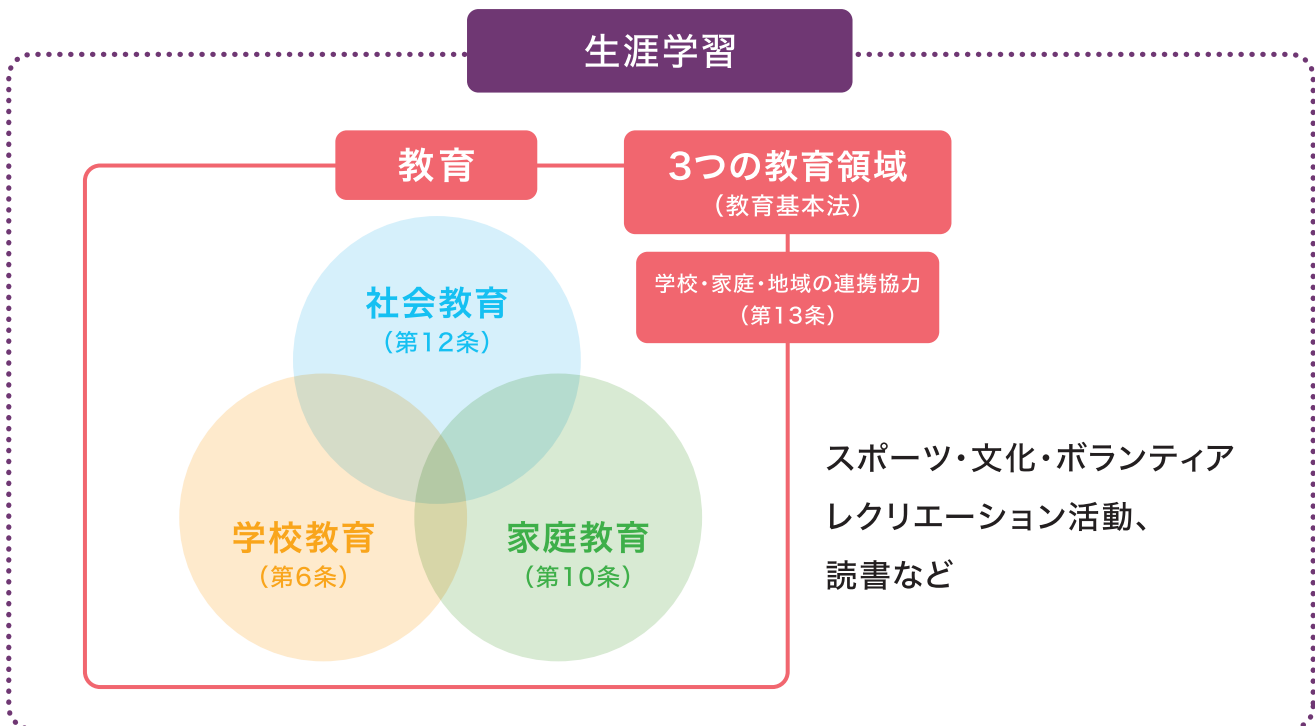
社会教育法 第2条(社会教育の定義)

(略)「社会教育」とは、(中略)学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)をいう。

教育の目的(教育基本法)には、一人ひとりが生涯にわたって知識や教養を高め自己を完成するとともに、社会の一員として個々の能力を発揮する人材を育成するという公共的な使命があります。

生涯学習の中で学校教育、家庭教育とともに重要な役割を持つ社会教育では、地域社会の変化に対応したさまざまなテーマについて市民自らが主体的に学び合うことによって、社会の形成者、すなわちまちづくりの当事者として学習の成果をよりよい地域づくりのために生かすことが求められています。

生涯学習のイメージ図



「生涯学習」は、「学校教育」「家庭教育」「社会教育」の教育の3領域を包摂していますが、このビジョンでは、主として「社会教育」を表します。

2 策定の背景

(1) 社会状況や国の動き

社会状況

我が国は、少子化による人口減少、急速な高齢化、デジタル化やグローバル化、未曾有の大災害や感染症への対策など、大きな変革期にあります。地域社会においても、地域の伝統行事などの担い手の減少、人と人とのつながりの希薄化による家庭や地域の教育力の低下、社会的孤立の拡大など、さまざまな課題に直面しています。

また、人口減少のさらなる進行、人生100年時代の到来、Society5.0※の提唱など、さらに大きな社会の変化が訪れようとしています。

このように先の見えない社会を生きていくためには、知識や技能を活用・発揮しながら、多様な他者と協働し課題を解決していく力が求められているといえます。リカレント教育などにより学校を卒業した後も、必要な資質・スキルを更新することや、ICT技術などの技術を最大限に活用することが重要になってきます。一方、こどもたちが自然体験、職業体験、スポーツ・文化芸術体験などのリアルな体験活動を行うことや、学校・家庭・地域の連携・協働によりこどもたちの学びの場を学校から地域社会へ広げ、次世代の社会の担い手としての成長を支えていくことも、社会の形成者を育成する上で不可欠なものとなっています。

※ Society5.0 国が平成28年1月の第5期科学技術基本計画において提唱し、令和12年頃の実現を目指している未来社会の姿で、情報や人工知能、ロボットなどの先端技術を産業や社会生活に活用し、経済発展と社会課題の解決を両立する社会。狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)に続く新たな社会。

国の動き

① 中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」(平成30年12月)

地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「社会教育を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり」が示されました。持続可能な社会づくりを進めるために、住民自らが担い手として地域運営に主体的に関わり、誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を生かすことができる生涯学習社会の実現に向けた取組が必要であり、社会教育は個人の成長と地域社会の発展の双方に重要な意義と役割を有していると記されています。

また、今後の社会教育の展開にあたっては、住民の主体的な参加のためのきかけづくりの推進や、これまで以上に首長部局、学校、NPO、企業などの多様な主体の連携・協働が必要であること、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設には、学習と活動の拠点としてのみならず、住民主体の地域づくり、持続可能な共生社会の構築に向けた取組の拠点としての役割が求められることなどが示されました。

② 「第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理 ～全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向けて～」 (令和4年8月)

ウェルビーイングの実現が、個人の問題でもあり、個人を取り巻く社会の問題でもあるという前提に立ち、ウェルビーイングの実現に向けて、社会全体の基盤として生涯学習・社会教育の推進体制の整備が重要であることが強調されました。

また、社会教育は、学校教育で取り扱われる内容の範疇にとどまらない、社会の変化に即応したさまざまなテーマを幅広く学ぶことができるものであり、住民自身が主体的に教え学び合う当事者となり、その学習の成果が地域における活動に還元されるような循環が生まれることが期待されています。

このように、社会教育が、持続的な地域コミュニティの形成や地域課題の解決といった住民自治を支える基盤として期待されることが示されました。

③ 第4期教育振興基本計画(令和5年6月閣議決定)

計画では、生涯学習の意義と必要性が次の2つのコンセプトのもと、これまで以上に重要なものとして位置づけられました。

2つのコンセプト

- 持続可能な社会の創り手の育成
- 日本社会に根差したウェルビーイングの向上

人生100年時代では、学校教育における学びの多様化とともに、社会人の学び直しをはじめとする生涯学習の必要性が高まっているとし、個人が生涯学び、活躍できる環境整備や学校と地域が連携・協働することで、子どもたちの学びの場を学校から地域社会に広げ、次世代の社会の担い手としての成長を支えていくことが求められています。

また、防災、福祉、産業振興、文化交流など広義のまちづくり・地域づくりに関する多様な行政分野において、その地域課題の解決に向けた持続的な地域コミュニティを維持するために、社会教育の役割が重要となることや、社会教育による「学び」を通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環により、個人と地域全体のウェルビーイングの向上がもたらされることなどが示されました。

④ 「第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理 ～全世代の一人ひとりが主体的に学び続ける生涯学習とそれを支える社会教育の未来への展開； リカレント教育の推進と社会教育人材の養成・活躍のあり方～」(令和6年6月)

高齢者、障がいのある人や外国人など社会的に制約がある人に対しても、学習ニーズを適切に把握し、学びやすい環境を整える必要があることや、誰もが生涯にわたって、意欲的に学び、スキルを身につけ活躍するために、社会人を対象としたリカレント教育の促進、また、それらを支える社会教育人材のあり方などが示されました。

(2) 廿日市市の状況

本市では、平成元年10月に廿日市市生涯学習推進基本構想を策定し、市民憲章の具現化や多様な学習機会の提供に取り組んできました。基本構想の策定から約35年の間、市民センター(旧公民館)・図書館・歴史民俗資料館・水族館といった社会教育施設、スポーツセンター・サッカー場などのスポーツ施設、文化ホール・美術ギャラリーなどの文化施設など多くの生涯学習に関する施設で市民の学習活動が行われてきました。特に、市民センターでは、講座の開催や施設の利用、身近な相談などの機能により、個人の学びの機会や仲間づくり、地域づくりの拠点として生涯学習の中核的な役割を担ってきました。

個人の学びの観点では、市民センターなどの公共施設だけでなく、民間施設やインターネットでも簡単に学ぶことができるようになり、子育て、福祉、産業、環境、多文化共生など数多くの分野で市民を対象とした講演会やフェスティバル、学習講座、養成講座などが開催され多種多様な学びの選択肢が増えています。

生涯学習に関する施設(令和7年4月1日現在)

施設分類	主な施設	施設数
社会教育施設	公民館 (類似施設を含む) <ul style="list-style-type: none"> ・市民センター ・あさはらまちづくり交流センター ・玖島ふれあいセンター ・吉和ふれあい交流センター ・多世代活動交流センター ・宮島まちづくり交流センター 	21
	図書館 <ul style="list-style-type: none"> ・はつかいち市民図書館 ・はつかいち市民さいき図書館 ・はつかいち市民大野図書館 	3
	博物館 (類似施設を含む) <ul style="list-style-type: none"> ・宮島水族館 ・佐伯歴史民俗資料館 ・吉和歴史民俗資料館 ・宮島歴史民俗資料館 ・はつかいち美術ギャラリー 	5
スポーツに関する施設	<ul style="list-style-type: none"> ・廿日市市スポーツセンター ・廿日市市サッカー場 ・佐伯総合スポーツ公園 ・野球場、テニスコート 	22
文化に関する施設	<ul style="list-style-type: none"> ・はつかいち文化ホール ・さいき文化ホール ・廿日市市民俗芸能伝承館 	3

第2章 ビジョンができるまで

1 策定に向けた取組 — みんなで考えたビジョン —

このビジョンの策定にあたっては、策定のプロセス自体も学びの機会と捉え、市民のみなさんや市職員が我がことにできるよう「学び」と「対話」を重視し、みんなでさまざまな意見交換をしながら大切に進めてきました。「生涯学習社会づくりのためのアンケート」「職員研修会」「市民ワークショップ」「市民アイデアの募集」など多くの取組を行い、みんなで生涯学習の価値や意義を考えていきました。

(1) 生涯学習社会づくりのためのアンケート

市民の日頃の学習活動や市民活動団体の地域での活動の現状、今後のニーズや考えを把握するため市民、市民活動団体、事業者へアンケートを行いました。(令和5年度実施)

市民アンケートから

Q. 生涯学習に力を入れることによる、まちへの効果

A. 「充実した生活を送る人が増える」…………… 62.2%
「地域における人と人とのつながりが生まれる」… 60.6%

やりたい人の
「やりたい」という気持ちを
後押しする支援や施策に
力を入れてほしい。

現役世代が
参加したいと思う
講座を増やしてほしい。

活動団体アンケートから

Q. 団体として活動してきた経験の生かし方

A. 「地域でのまちづくりや地域の
活性化のために生かしたい」…………… 54.7%

今後の発展のために
若い世代の人と
交流したい。

事業所アンケートから

Q. 生涯学習を充実するために市が力を入れること

A. 「市民のニーズや年代に応じた学習機会を増やす」 75.0%
「民間企業と連携した学習機会を増やす」…………… 50.0%

市民同士の学びの場を
つくりたい。

(2) 職員研修会

生涯学習・社会教育の役割について学び、生涯学習を生かして地域の課題解決や各施策の実現を図るため、社会教育施設やまちづくりに関係する市職員と社会教育委員とを対象に研修会を行いました。(令和5年度実施)

第1回 講演 「社会教育による地域づくりの土台づくり」

静岡県裾野市東地区おやじの会 何にもしない合宿実行委員長 小田圭介さんからの学び
『地域が教育力を発揮するために必要なことは、“人と人が良好な関係でつながった状態を創り出すこと”です。』

第2回 グループワーク 現場職員の声から広げる「方針に取り入れる理想・アイデア」

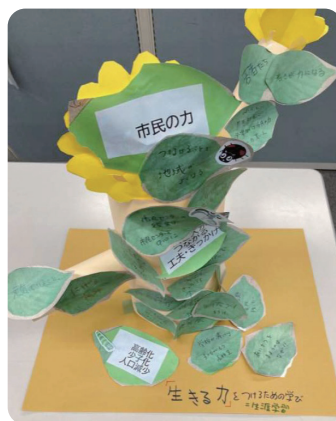
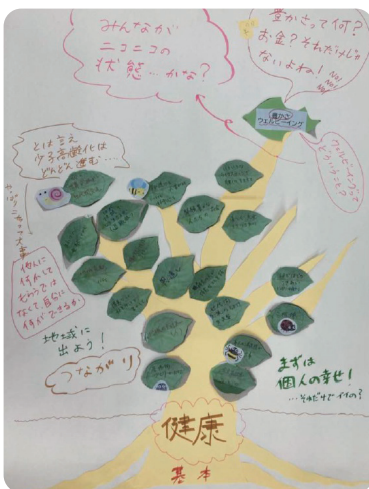
第1回での生涯学習に関するワードを使って、各自が経験やモヤモヤ、理想・アイデアを出し合って連想するキーワードやキーフレーズ(生涯学習の“葉”)を広げていきました。

第3回 講演 「これからの廿日市の生涯学習・社会教育のあり方を共に考える 人と社会の幸せを紡ぐ社会教育・生涯学習」

広島修道大学人文学部教授 山川肖美さんからの学び
『生涯学習には、主体的な学び、自己実現、他の人も喜んでくれる学びなどがあります。学びによって、私もみなさんもみんなで幸せになることが大切です。』

第4回 グループワーク 廿日市市の生涯学習で「大切にしたいこと・大事だと思うこと」

第2回で出し合った理想・アイデアの“葉”を元に、生涯学習の“枝”や“幹”となる大切にしたいことや大事だと思うことをまとめていきました。



(3) 市民ワークショップ

アンケートや職員研修会での意見を踏まえて、「学びのインフラづくり」に関するワークショップを行い、未来の廿日市市にあったらよい場やしくみ、学びのインフラやウェルビーイングを実現するための具体的な活動のアイデアを参加者みんなで出し合いました。(令和6年度実施)

- 第1回

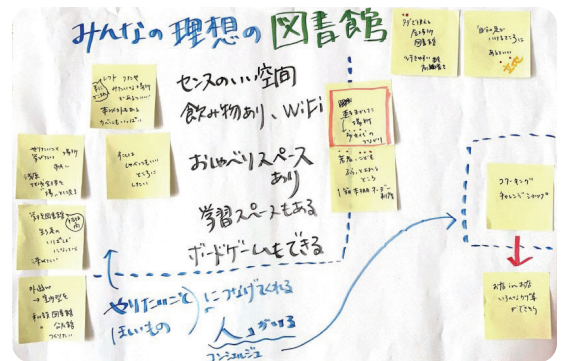
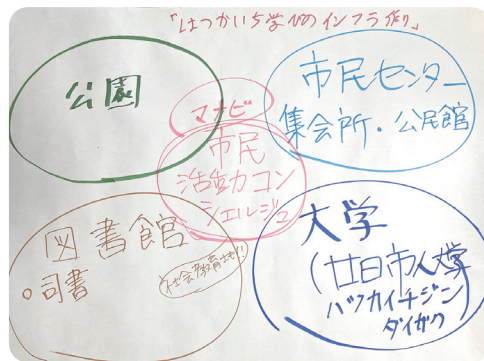
未来の廿日市市にあったらいい場やしくみの検討
 ゲスト：ミナガルテン 谷口千春さん
- 第2回

廿日市市の学びのインフラ整備の検討
 ゲスト：ウィー東城店・株式会社総商さとう 佐藤友則さん
- 第3回

みなが折り合えるウェルビーイングを実現する活動の提案
 ゲスト：叡啓大学 保井俊之さん

ワークショップでの提案

- 若い人のチャレンジと活躍を応援
- 互いをつなぐ仕組みで全世代の成長を応援
- “ありがとう”を言おうキャンペーン
- みんなの理想の図書館
- 活動の価値観の出会いマッチングアプリ
- 普段話にくいことも気軽に話せる場所
- 学びの支援活動コンシェルジュ
- どこでも学べる「廿日市人大学」
- マンホールや道路にアートを描く など



(4) 市民アイデアの募集

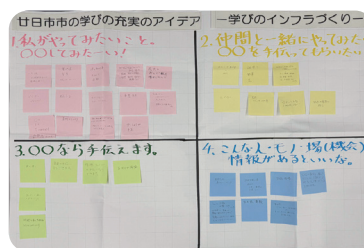
これからやってみたいことや充実してほしい学びの環境(ヒト・モノ・コト・情報など)に関するアイデアを市ホームページや図書館、市民センターなどで募集するとともに、市民センターの企画運営委員や社会教育委員などが意見を出し合いました。(令和6年度実施)

募集したアイデア

- 私がやってみたいこと(今、関心があること・気になっていること)
- 仲間と一緒にやってみたいこと、手伝ってもらいたいこと
- 私が手伝えること
- あったらいいと思うヒト・モノ・コト・情報

参加施設・参加者

はつかいち市民図書館、はつかいち市民さいき図書館、はつかいち市民大野図書館、津田市民センター、友和市民センター、玖島市民センター、佐方市民センター、フジタスクエアまるくる大野、大野西市民センター、大野東市民センター、大野支所、阿品台中学校職場体験生徒、社会教育委員、市民全般(ホームページでの募集)



市民のみなさんの声

- 中高生といっしょに活動できること
- ホッと一息つける場所があればいい
- いろんな人に絵本を読み聞かせて楽しみたい
- 地域の歴史、自然(動植物)を知り、残したい
- こどもの遊び相手になってほしい
- 太鼓をやってみたい!
- 修理・ものづくりの手伝いできます
- 草刈り手伝えます、チェーンソー使えます
- 話し相手できます
- 電車に乗るのが好きなので いろいろ話ができます!
- 友だち関係の相談いつでも聞きます!
- 町内の道案内できます など

2 廿日市市の特徴

これまでの取組や令和5年度から令和6年度にかけて、ビジョン策定に向けて行った市民や市職員を対象として開催したワークショップなどの意見から廿日市市の充実しているところや求められているところをまとめました。

今充実しているところ

市民活動団体、自主活動グループなどが多数あること

- ・さまざまな市民活動団体、自主活動グループなどが、市民センターや集会所、市民活動センターなどを拠点に自主的に活動しています。
- ・高齢者のサロンやこども食堂、登下校の見守りや授業支援など学校支援といった市民ボランティアによる活動が活発に行われています。

生涯学習のための市の施設が充実していること/身近にあること

- ・おおむね小学校区単位で市民センターが設置されており、主催講座の開催や自主活動クラブによる学習活動を行う学びの場が充実しています。
- ・文化ホール、市民図書館、スポーツセンターをはじめとした文化・スポーツ施設が整備されています。

多様な主体による幅広いテーマの学びの機会が提供されていること

- ・市民センターや図書館などの社会教育施設や健康づくり、環境、子育て支援、介護、防災といった各担当課、社会福祉協議会などが主催する幅広いテーマの講座・イベントが開催されています。
- ・市内及び近隣に立地する大学による公開講座や健康、福祉、環境、防災などさまざまな分野の市民公開講座やボランティア養成講座など専門的な学びの機会も提供されています。

顔が見える関係づくりにちょうどよい規模感のまちであること

- ・地域内には人の温かさや人と人の関わりがあり、特に中山間地域では顔が見える関係があります。
- ・市民の間で活動している人の情報が共有されたり、地域でのつながりづくりを目的とした「何にもしない合宿※」などの新たな取組が市内に広がっています。

地域ごとに自然環境や歴史が多彩なまちであること

- ・海、里、山の自然、キャンプ場やくだもの狩りなどができる自然豊かな環境に恵まれています。また、まちと自然のバランスが良いと感じる人が多いです。
- ・世界遺産を有する宮島や西国街道、津和野街道などの歴史の道、地域のまつりなど多くの歴史が残っていることや地域性や伝統が大切にされています。

若い世代が増えたり、新たな活動を始める若い市民がいること

- ・一部の地域では、学校の児童生徒数や若い世代の移住者が増えています。
- ・若い世代の中には、地域でスモールビジネスやこどもの居場所づくりなどの活動を始める人たちがいます。

ともに学ぶ学習への関心が高いこと

- ・現状では、「パソコンやインターネットを活用した個人学習」、「書籍、テレビ、ラジオなどを使用した個人学習」によって学習している人が多く見られましたが、これから学習する場合の希望として、「公共の市民センター（公民館）が行う講座や教室」、「図書館、美術館、博物館などの公共施設が行う講座や教室」で学びたいと感じている人が多くいます。
- ・趣味・嗜好が同じ仲間との交流があったら人生が豊かになると考えている人が多くいます。

これから求められているところ

現役世代対象の学びの場が少ないこと

- ・高齢者や子育て世代向けの講座に対して、現役世代が参加できる時間帯や参加したい講座が少ないことが指摘されました。また、短時間や気軽に学べる講座の充実が求められています。
- ・やりたい人の「やりたい」という気持ちを後押しする支援が少ないことが指摘されています。

必要な人に情報が届いていないこと

- ・どこでどのような講座があるかなど、詳しい情報を対象者やニーズに応じてわかりやすく伝えてほしいという要望があります。
- ・転入者や施設を利用したことがない人などにも地域の情報や興味・関心を高める情報を提供することが必要です。

個人でも参加できる居場所や交流の場が少ないこと

- ・都市部と比べて市民同士の学びの場や交流の場が少ないという声であったり、同じ課題を持つ人たちが語り合う場を求める声があります。また、市民センターなどの施設を個人でも借りることができるように望む声があります。
- ・若者世代、社会人や多世代が集える知的好奇心を刺激する集いや趣味を通じた仲間づくりの場を求める声があります。

地域や団体の担い手が高齢化・固定化していること

- ・メンバーの高齢化、固定化や世代交代がなかなか進まないといった声が多く寄せられています。
- ・若い人にも参加してもらいたい、地区外からの協力や学生のボランティアにも協力を求めたいといった声が多く寄せられています。

人や活動をつなげる人材が少ないこと

- ・市民センターなどに対して、地域団体が活動しやすくなるよう地域内の交流の促進やお互いの顔が見える地域づくりに向けたコーディネート機能やネットワークづくりを求める声が寄せられています。
- ・教育を学校だけでなく、社会の多様な主体により社会全体で教育を行うため、ゆるやかな連携づくりを求める声が寄せられています。

※ 何にもしない合宿 静岡県裾野市で始まった大人が何も準備をせずに負担感なく開催できるお泊り会。夕食と入浴を済ませた子どもたちが学校などに集まり過ごし、1泊して朝帰る取組。

第3章 廿日市市が目指す生涯学習の姿

1 目指す姿

このビジョンの策定では、これまでの本市の取組や特色を生かすとともに社会状況の変化、地域の実情、市民ニーズなどに対応した廿日市市が目指す生涯学習の姿や目指す姿に向けた実現の方向性について、市民と市職員が対話的な学びを通じて、検討を重ねてきました。

そして、廿日市市が目指す生涯学習の姿を、「一人ひとりの『学びたい』から 輪が広がり みんなで居心地のよいまちに」としました。

一人ひとりの「学びたい」から 輪が広がり
みんなで居心地のよいまちに

● 目指す姿のイメージ

居心地のよいまち



目指す姿に込めた思い

誰もが生涯にわたり幸せに暮らしていくためには、“市民一人ひとりの幸せ”が原点にあると考えました。

「何かを学んでみたい」「新たなことに挑戦してみたい」という意欲をきっかけに、やりたいことが達成できること、自己実現が図られることが幸せの源だと考えています。

さらに心豊かな暮らしのためには、学びによって個人が成長することはもちろん、他者との学び合いによって、自分にはない新たな視点・価値観を得ることや出会い・つながりが生まれること、支え合い・育ち合いの風土が醸成されることも重要です。

一人ひとりの学びを後押しすること、人々が集まって自由な発想で試行錯誤しながら学びを深め、広げること、学び・つながりを地域で生かすことなどによって、各自ができることを持ち寄りながら安心して心豊かに暮らすことができる地域をともにつくっていききたいという思いを込めて、「一人ひとりの『学びたい』から 輪が広がり みんなで居心地のよいまちに」としました。

● 一人ひとりの「学びたい」から

- 自己の興味・関心や自発的な意欲を学びの出発点にしたい。
- “遊び”のようにワクワク感がある自由で探究的な学び・体験を尊重したい。
- すでに「学びたい」ことがある人だけでなく、ない人にもさまざまなことに興味・関心を持つきっかけを促したい。

● 輪が広がり

- 興味・関心から始めたことが自然と誰かの役に立っているような学びの輪を広げたい。
- 学ぶことで新たな気づきや喜びが生まれ、自己の世界を広げたい。
- 学んだことを教えること、行動に生かすことで学びの効果をまち全体に広げたい。
- 学びや活動によって人と人がつながり、笑顔や交流の輪を広げたい。
- 学びを通じて多様な主体のつながりを広げたい。
- 身近な場所で小さなつながりをたくさんつくり、安心につなげたい。

● みんなで居心地のよいまちに

- 学びを通じた人づくりによって、安心して居心地のよいまちをつくりたい。
- 時代に合った学び方やゆるやかなつながり方によって、持続可能で居心地のよいまちをつくりたい。

生涯にわたる学びを通じて自分らしく生きる
ともに学び、ともに豊かなまちをつくる人々が育つ



居心地のよいまち
(ウェルビーイング)
の実現

2 目指す姿の実現に向けて

「一人ひとりの『学びたい』から 輪が広がり みんなで居心地のよいまちに」という目指す姿の実現に向けて、3つの柱を立てました。

(1) 学びを応援する ー学びの環境を整えるー

「いつでも」、「どこでも」、「だれでも」関心や目的に応じて学ぶことができるよう、学習・体験活動・スポーツ・文化芸術活動などに親しむ環境や機会の充実に取り組みます。

年齢や対象者を問わず多様な分野への興味・関心を促し、家庭教育の支援、学校卒業後も知識やスキルをアップデートするための学びの機会、障がいのある人や外国人など社会的に支援が必要な人々の学びの場の提供など幅広く取り組む必要があります。

また、「応援する」には、学びを後押しするために、市が使いやすい施設や効果的な情報提供などの環境を整備することに加え、市民同士の学び合い、市民や事業者による「～なら手伝えそう」といった地域内での助け合いなども含まれます。

実現に向けた取組の例

- 楽しい・おもしろいと思える学びの拡充
- ライフステージに応じた学びの場と機会の充実
- 多様性に合わせた学びの場と機会の充実
- 地域課題の解決につながる学びに対する支援
- とともに学び合う場や機会の充実
- 個人の学びを周りが支える風土の醸成

実現に向けた主な役割

■ 市民

- 生涯にわたり、新たな知識を得ることや学ぶことに興味、関心を持ちます。
- 誰かを誘って学習や活動に参加したり、仲間と一緒に楽しく学びます。
- 身近な困りごとに対して、仲間の相談に乗ったり、できることを手伝います。

■ 市

- 市民センター、図書館などの社会教育施設やスポーツ・文化施設において、学びのきっかけづくりや誰もが気軽に学べる多様な学びの機会を提供します。
- 社会人や現役世代のニーズに応じた学びの機会を広げます。
- 市による研修会の開催や市民が企画する学習会・研修会を支援し、学びの裾野を広げます。
- 一人ひとりの始めてみたいことや挑戦したいことが実現できるよう情報提供や相談などの支援を行います。

(2) つながるしくみや場をつくる 一人をつなぎ、学びの輪を広げる

価値観が異なる人々が協力してよりよいまちづくりを目指すためには、お互いを理解するための話し合いや共通の目標達成に向けたコミュニケーションを日常的に行うことが大切です。

学びをきっかけに、人々が出会い、多様な主体がつながる場づくりを行うことで、学びの輪を広げます。

そのためには、本市で充実している市民活動団体や自主活動グループなどの多様な活動を生かすことが大切です。

つながる場や機会として、世代間のつながりづくりや家庭、学校、職場以外の第三の居場所づくりにも取り組みます。また、学校教育と社会教育の連携や家庭、学校、地域、企業、行政機関といった多様な主体によるつながりづくりにも取り組む必要があります。

人とヒト(人・人材など)のつながりに加えて、モノ(施設、地域資源など)・コト(体験、活動など)・情報をつなぐしくみや場づくりにも取り組みます。

実現に向けた取組の例

- 誰でも気軽に自由に立ち寄れる場づくり
- 知り合う・顔見知りになるしくみや場づくり
- 世代間の交流・次世代へ継承するしくみづくり
- デジタルやさまざまなツールを活用したつながりづくり
- 多様な主体が混ざり合うしくみづくり
- これらを行うための、社会教育施設などを活用したプラットフォームづくり

実現に向けた主な役割

■ 市民

- 興味・関心があることを持ち寄って対話することや、得意なことを分かち合うことで、学びを周囲に広がります。
- 講座などの学習活動やクラブ活動、ボランティア活動などの場に積極的に参加し、仲間との交流を深めます。
- 誰もが対等な立場で、お互いを尊重し合い、対話を重視します。

■ 市

- 市民センターや図書館などの社会教育施設を活用し、世代を超えて気軽に集い、学習や活動を通じてつながりや交流が深まるような場づくりを行います。
- 市民センターが地域資源(ヒト・モノ・コト・情報)や多様な主体をつなぐハブとなるよう、地域住民の対話の場づくりやネットワークづくりを行います。
- コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を進めることにより、学校や地域において地域の多様な人材や資源を生かした学びの充実を図ります。また、活動を通じた地域住民・団体などの関係づくりを進め、地域全体でこどもたちの成長を支える体制の充実に取り組みます。

(3) 学び・つながりが生きるまちづくり —学びを地域の力に変える—

一人ひとりが学びで得た知識・経験と対話的な学びや協働活動を重ねることで地域に根付く信頼感・安心感・活気などを、まちづくりに生かすことが大切です。

学びの機会や対話・交流の場を広げることで、「学び」「活動」「活躍」の循環を進め、人づくり・つながりづくりを通じた“まちづくりの基盤づくり”に取り組みます。

そのために、地域の課題やニーズに即した地域活動やボランティア活動の場を整備し、学んだことが実践できるしきみを整えます。

また、多様な主体と連携・協働を図りながら地域の課題解決につながる学びをコーディネートする専門的人材の育成と活躍の場づくりに取り組みます。

実現に向けた取組の例

- 誰もが安心・幸せなまちづくり
- 助け合いや支え合いが自然に生まれるまちづくり
- ライフステージに応じて活躍できるまちづくり
- ふるさとの歴史・自然・産業・文化等に愛着を持ち、大切にすまちづくり
- 市民の学びと活動がつながり、その成果が適切に生かせるまちづくり

実現に向けた主な役割

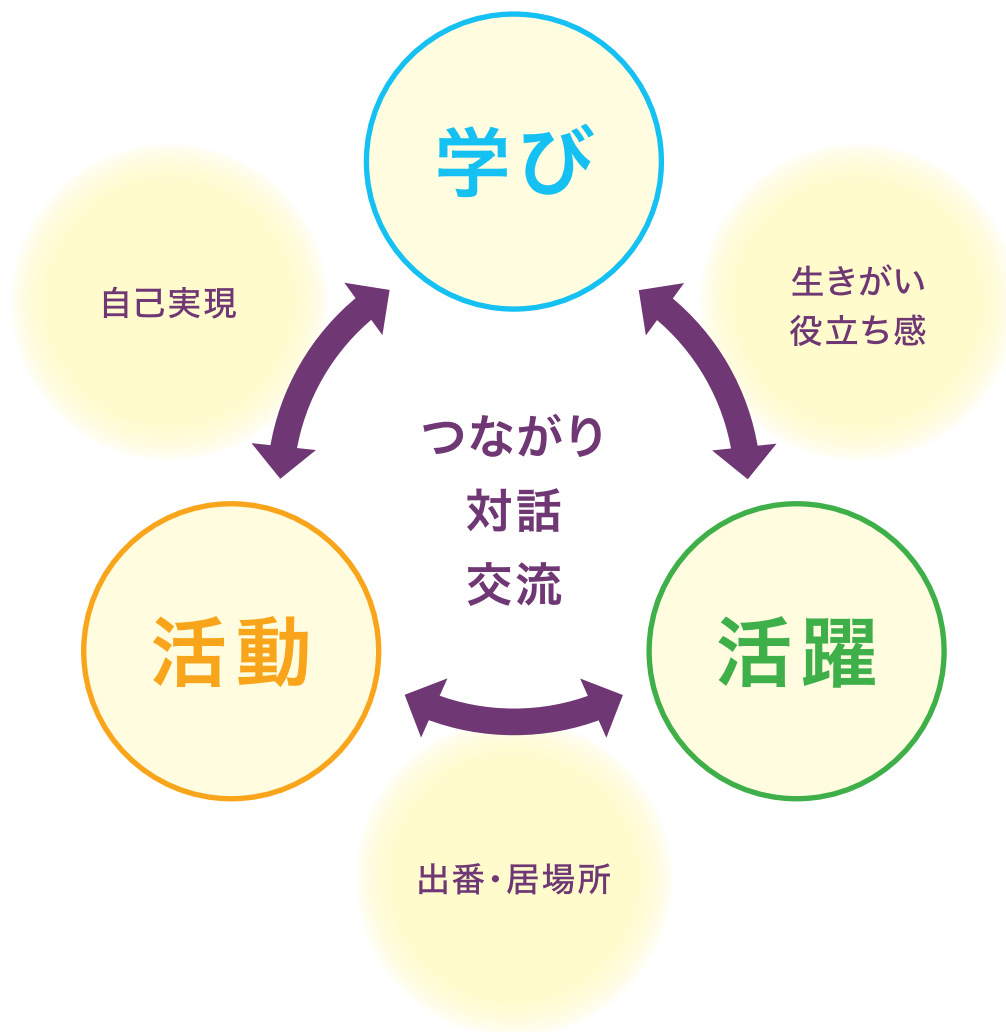
■ 市民

- 学んだことや得意なことを生かして、身近な人や地域の困りごとを手助けします。
- ふるさとの歴史や自然、文化などに関心を寄せ、住んでいる地域に誇りと愛着を持ちます。

■ 市

- 市が目指すまちの姿を伝え、社会教育施設や各部署が行う事業を活用して、市民の声を聞く機会を設けます。
- これまでの市民活動を生かすとともに、若者など新しい力を活用して、市民、市民活動団体、学校、大学、企業、行政などが連携して地域の課題解決につながる学びの機会を設けます。
- 市民センターや市民活動センターを中心に、主体的な学びを支える環境づくり、学んだことや経験を福祉活動や学校支援など地域社会の中で実践できるよう学びと活動が循環する環境づくりに取り組みます。
- ふるさとの歴史、自然、文化などに関する情報や地域で行われる学びとまちづくりに関する好事例などの情報発信を行います。
- 人と人、人と地域、学びと活動などを結びつけるコーディネートや協働の手法による学びのプロセスを重視した学びと実践の場づくりを行うため、社会教育人材の育成と活用に取り組みます。

「学び」「活動」「活躍」の循環のイメージ図



「学び」

興味・関心に応じた学びは、自分らしい生き方の実現や学びで得たスキルなどを生かした地域活動などに発展することが期待され、「自己実現」や「生きがい」、「社会での役立ち感」につながるものです。

「活動」

活動は、学びの実践の場であるとともに「自分の役割がある・自分らしくいられる」という「出番」や「自らの居場所」の実感につながるものです。

「活躍」

活動を通じて地域の中で貢献・活躍できていると感じることで、さらなる学びへのモチベーションの高まりが期待できます。

これら「学び」「活動」「活躍」が循環し地域内の関係づくりが進むことで、地域の土壌が強く・豊かになり、いきいきとした活力あるまちが生まれることが期待できます。

第4章 ビジョンの推進にあたって

1 他の計画との関係

(1) 廿日市市総合計画との関係

はつかいち未来ビジョン2035(廿日市市総合計画)では、「市民一人ひとりがともに幸せに暮らせるまちづくり」を基本理念として、まちづくりを進めることとしています。また、目指すまちの姿を「安心に包まれ ワクワクが広がる 未来への挑戦を楽しむまち つなぎ つながり とともに歩む」として将来像を描いています。

まちを支えているのは市民一人ひとりであり、人づくりは未来への投資です。また、人づくり・つながりづくりは、将来の地域力を支える土壌を耕す営みでもあります。

「はじめに」に記したように「学びのインフラづくり」とは、教育にとどまらず、防災、福祉、産業振興などあらゆる分野のまちづくりを進めるための基盤づくりに取り組むことです。

このビジョンを、はつかいち未来ビジョン2035の基本理念や将来像を目指す上で、まちづくりの土台・基盤となる人づくり・つながりづくり・地域づくりの役割を果たすものとして位置づけます。

(2) 教育に関する計画との関係

このビジョンは、生涯学習や社会教育の意義と必要性が一層重要なものとして位置づけられた国の「第4期教育振興基本計画」を参考にして策定しました。国が示した生涯学習や社会教育に関する基本施策や指標を勘案しながら、本市の実情に応じた「学びのインフラづくり」に取り組みます。

また、本市の教育、学術及び文化の振興に関する施策の目標・方針を定めた「第3期廿日市市教育大綱」、教育分野に関する施策・取組を具体化した「第4期廿日市市教育振興基本計画」の基本理念・基本目標・主な取組などと整合を図りながら推進します。

(3) 生涯学習に関する計画との関係

市民センター、図書館、歴史民俗資料館などの社会教育施設やスポーツ、文化施設は、生涯にわたる学びを支援し、学びを支える主要な拠点となるとともに、地域活性化やまちづくりの拠点としての機能も期待されています。各社会教育施設の取組については、このビジョンとの関係を意識しながら「廿日市市市民センター基本方針」、「廿日市市図書館基本計画」、「廿日市市スポーツ推進計画」といった個別計画などにおいて推進します。

2 推進体制

(1) 多様な主体との連携

ビジョンを実現するためには、市だけでなく、市民、市民活動団体、高校や大学、企業、NPOなど多様な主体の力が不可欠です。そのため、市と多様な主体との連携を進めるとともに、各団体相互の連携も進めながら生涯学習の推進に向けて取り組みます。

多様な主体との連携に向けた取組の例

- ★ 人材・ニーズの発掘や把握
- ★ 多様な主体が知り合い、情報共有する場の設定
- ★ 活動者、活動団体の情報発信や具体的事例の提供
- ★ 連携のための相談窓口・コーディネート機能の体制整備

(2) 分野横断的な連携

昨今では、生涯学習の役割である学びを通じた「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」が地域福祉、地域防災、産業振興や中山間地域のまちづくりなど、さまざまな分野の生活課題の解決につながることで全国で実証されています。

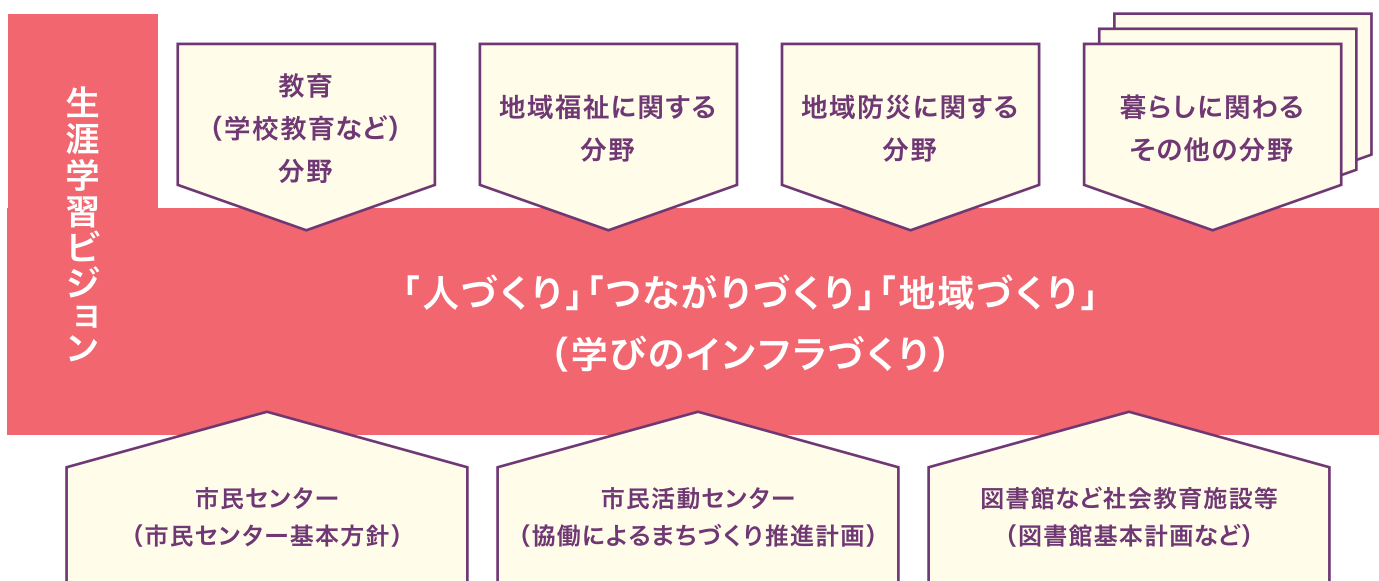
このように、生涯学習の推進は、市のさまざまなまちづくりの分野の基盤・土台となり得ることから、こうした基盤（「学びのインフラ」）を全庁横断的な社会（関係）資源として生かし、目指す姿の実現に向けて、関係部署が連携して取り組みます。

また、市民センター、図書館、歴史民俗資料館などの社会教育施設、市民活動を支える市民活動センターにおいては、このビジョンを踏まえて、各施設で市民の学びと活動の機会の充実・支援に取り組みます。さらに、各施設の機能を連携・融合させ、地域の持続的発展を支える人づくりに取り組みます。

分野横断的な連携に向けた取組の例

- ★ 市職員や関係者（団体）同士が知り合う場の設定
- ★ 各課の情報や業務を理解・共有する場の設定
- ★ 人づくり・つながりづくり・地域づくりに関する学習機会の設定
- ★ 生涯学習の視点を各部署の業務につなげる具体的事例の提供や体制づくり

分野横断的な連携のイメージ図



● 市民センター

市民センターには、市民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進し、実際の活動に結びつける役割や地域学校協働活動の拠点としての役割を担うことが期待されています。

「集う」「学び合う」「つながる」「活躍する」の4つの機能を発揮し、主として区域内の学びとまちづくりの拠点としての機能の充実を図ります。

● 市民活動センター

市民の主体的な活動を支援するため、多様な主体との連携や市民活動に関する相談、助言、情報や場の提供などを行い、このビジョンにおける「学び」「活動」「活躍」の好循環を支える市域全体の拠点としての機能の充実を図ります。

● その他の社会教育施設など

市民一人ひとりの知的好奇心の高まりや知識や技能の向上を図るため、図書館、歴史民俗資料館、スポーツ・文化施設などにおいて、学びのきっかけづくりの場としての機能や気軽に多世代の市民が集う居場所としての機能の充実を図ります。

(3) 庁内連携会議・委員会などでの意見集約

地域連携会議などを活用して庁内関係課で定期的な情報共有の場を設定します。

また、廿日市市総合教育会議、協働によるまちづくり審議会、教育委員会会議、社会教育委員会会議での対話により、市長部局との情報交換や地域で活動している社会教育委員などの意見を踏まえながら進めます。

3 推進状況の把握

目指す姿を実現していくためには、市民一人ひとりが、「学びたいことが学べる」「学んだことが活かされている」という実感を持つことが大切です。このビジョンを推進することで、市民の意識の変化や行動の変容を確認しながら、目指す姿の実現に取り組みます。

把握の方法として、はつかいち未来ビジョン2035の基本構想や基本計画の指標の達成度を参考にします。

また、市民センター、図書館などの社会教育施設や各部署が行う事業を活用して組織横断的に市民の意識や行動の変化を測る機会を設けるほか、市民アンケートを適宜実施します。

● はつかいち未来ビジョン2035(第7次廿日市市総合計画)基本構想

【生涯学習・スポーツ・文化】

指標	現況値	方向性
日頃の生活に充実感を感じている市民の割合	55.7%	↗
市の歴史や伝統文化に誇りや愛着を持っている市民の割合	43.3%	↗

● はつかいち未来ビジョン2035(第7次廿日市市総合計画)前期基本計画

【生涯学習の推進】

指標	現況値	目標値
学びたいことを学べる機会がある市民の割合	22.5%	27.0%
やりたいことに挑戦できる機会がある市民の割合	13.0%	17.0%
学んだことを地域や社会に活かした市民の割合	8.1%	11.0%

おわりに

「学びのインフラづくり」に取り組んだ結果、学びを楽しみ、学びによってつながり、学びを生かす人々が増えることで、意識や行動の変化が生まれ、市民一人ひとりが、いきいきワクワクと自分らしく暮らしを楽しむとともに、ともに育ち合う風景がまち全体に見られること、それらが原動力となって“みんなで居心地のよいまち”が実現することを私たちは目指していきます。

① 何にもしない合宿

こどもを中心にした
地域での顔の見える関係づくり



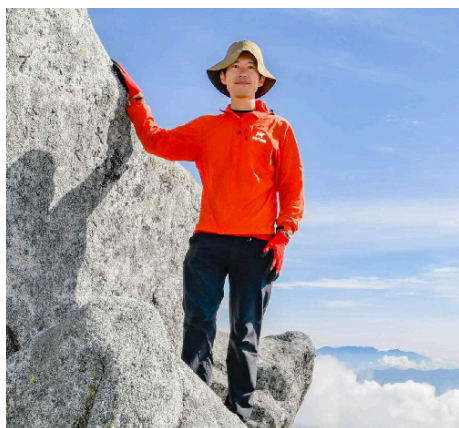
なん

何にもしない合宿 in 宮内

地域のこどもたちが夕食・お風呂を済ませた後集まり、自由に遊んで、寝て、朝帰る活動です。

令和6年6月から宮内小学校体育館をメインに毎月開催しています。

集まったこどもや大人が互いにかかわり合い、顔見知りになることで、地域での日常的な関係づくりを目的に始めました。



何にもしない合宿 in 宮内 代表 寺本 光児 さん



やってよかったと思うことは？

月に1回の定期的な活動を重ねることで、こどもと地域の大人がゆるやかにつながり合う関係性が築かれてます。街や学校で会った時に、たくさんのこどもたちが声をかけてくれるようになり、普段の暮らしに彩りが増しました。

自分自身や周りの変化はありましたか？

20年以上実施してきた宮内市民センター主催のこどもの講座「なかよし広場」が令和元年になくなってから、地元のこどもたちとの身近な関係性が薄れていました。合宿を始めて、昔のような地元のこどもたちとの顔の見える関係性が復活しました。昔小学生の頃になかよし広場に参加していた若者も手伝ってくれています。

社会教育や生涯学習を基盤とした人と人とのつながりが、世代間のバトン渡しのようにつながる様子もあり、うれしく思っています。

あなたにとって生涯学習とは？

人と人が関わることの楽しさの先に、気づけば得られているさまざまな価値。その価値を得ることを目的にしているうちは得られない価値。

参加者の声

こども

チラシをみて楽しそうだと思って友達と一緒に参加しました。友達が増えたり、違う学年の子とも知り合いになれて、学校で会おうとあいさつをするようになりました。

大人スタッフ

20年くらい前から、市民センターでなかよし広場のスタッフを続けていました。コロナで活動が途切れた後、寺本さんが「何にもしない合宿」をやりたいと知って広場のスタッフも一緒に加わりました。長年活動している中で、大変という感覚はなく、こどもや孫とも一緒に参加したり、生活の中で当たり前地域の子供たちと過ごしています。6年生が卒業した後も来てくれたり、大きくなって気にかけてくれるのはうれしいです。

② 倶楽部がちゃがちゃバンド

何歳からでも楽器を
初めてみたい人が集まるクラブ活動



倶楽部がちゃがちゃバンド

60代から80代(最高齢88歳)を中心に、楽器を演奏してみたかった人たちが集まり、「音楽をみんなで楽しむ」をモットーに活動しています。楽器は、お孫さんのピアノカやリコーダー、買ってきたキーボード、太鼓、ハーモニカなどさまざまで各自が演奏したい楽器を練習しています。

令和6年の2月に始まり、現在は玖島市民センターで月1回練習していますが、これまでに市民センターまつりや友和小学校創立150周年記念式典での演奏にも挑戦しました。こどもたちが飛び入りで演奏に加わってくれたり、誰にでも開かれたバンドとして活動しています。



倶楽部がちゃがちゃバンド 主宰 吉本いづみさん



活動を始めたきっかけは？

きっかけは、令和5年に生涯学習研修会で振った一つのサイコロでした。研修後「やりたいことはすぐ始めないと、できないままで人生が終わったら、もったいない」と感じていた時にちょうど、玖島サロンの参加者からピアノを弾きたいとの声があがったことです。

自分自身や周りに変化はありましたか？

参加者の楽しそうな笑顔が見られたこと、新しい繋がりや輪が広がっていること、楽器経験が初めての方もどんどん上達していることです。やる気があればいつになっても向上できることをメンバーから教えてもらいました。

当初は、人前での演奏は厳しいかなと思っていましたが、センター祭りでの発表があり、練習を通して「がちゃがちゃ」だけど、演奏もできるようになりました。メンバーが積極的に声をかけてくださり、居心地の良いコミュニティを作ってくれています。

今後は、活動を通して地域社会やこどもたちに「音楽に年齢は関係ない」というメッセージも届けられると良いです。

あなたにとって生涯学習とは？

年齢に関わらず、日々の暮らしのすべてを学びとして積み重ねること。一生が学びの連続だからこそ、いつになってもワクワクできる「学びの場」が必要だと考えます。

メンバーの声

- 友人に誘われて参加しました。楽器を演奏するのは初めてです。楽器演奏は、練習の成果が現れるので、できなかったことができるようになると、とてもうれしい気持ちになります。
- 戦後の生活が厳しい時代に小学校で先生からピアノを教えてもらっていました。あれから数十年多くの経験をしてきて、何か新しいことをやってみたいと思い参加しました。今では買物などでメンバーと出会ったときにあいさつするようになったり、活動がないときも連絡を取り合ったりして、日々楽しく過ごすことができます。
- 音楽は好きですが歌が苦手なので、気軽に音楽が楽しめる場があってうれしいです。合奏は演奏後にみんなで喜び合えるのがよいところ。他の人が上手になっていると、自分も頑張ろうと励みになります。玖島の雰囲気が好きで他の地区から参加しています。

③ art201

アートを通じて 誰もが
自分らしく 表現できる居場所

参加者の声

くるよっ!

好きなものを
描いています

たのしい時間を
すごしています

居場所のひとつに
なったらいいな



「あったらいいな」から生まれた場所

art201は、障がいのある人と一緒に創作活動をする場所です。ここに集まる人はみんな参加者。生まれてくる表現を楽しみながら過ごします。「あったらいいな」という願いから生まれた、もうひとつの居場所です。

活動はてんこもり

毎月1回サロンを開き、みんなで創作活動をしています。企画は会員が分担し、担当になった人の「やってみたいこと」を形にします。サロンはときに実験室のよう。ハラハラ、ドキドキ、ワクワクしながら参加することもあります。絵を描く日もあれば、ピアニストを招いてコーヒーを飲みながら身体表現を楽しむ日もあります。楽器づくりや染め物、等身大すごろく大会やオリジナルかるた大会など、思いがけない活動が生まれることもあります。

会員による会員のための会

art201には、障がいのある人もない人も参加しています。入会すればみんな会員。見学に来た人も一緒に手を動かし、それぞれのペースで創作に向き合います。最初は何をしたらいいかわからなくても、とにかく手を動かしてみる。作品ができたから見せ合い、感想を伝え合います。

続くチャレンジ

これまで展覧会やワークショップ、サロンで生まれたグッズの販売など、さまざまなチャレンジもしてきました。どれも会員が考え、やってきたことです。参加者主体の活動を続けていくのは簡単ではありません。準備や片付け、お金の計算など、会を運営するには多くのことがあります。あれこれ悩みながら、「やれんよー」と思うこともあります。それでも「次は何を作ろうか」と話しながら、創作を通して人が出会い、響き合う場が続いています。



策定に向けた市民・市職員の言葉

目指す姿や実現の方向性を設定するにあたり、

策定プロセスのさまざまな場面で市民や市職員が出し合ったビジョンの元となる言葉

● 私たちが大切にしたいこと

- 大人が楽しく無理なくやれること、楽しくやっている大人はこどもたちの憧れになる
- 個人個人のやりたいことがたくさんあるとしっかりした土壌が作られる
- 人と人がつながる工夫・きっかけを行政がつくり、つながることで地域がよくなる
- 人生100年生きようと思ったら一番大事なのは「心身の健康」
- 家庭教育をしっかりすることで社会教育や学校教育がうまくいくのではないか
- こどもたち自身が自己決定する場づくり、多様な人に出会える場の経験や体験が必要
- 「安心」がないと人の心が動かない
- 「労力も持ち寄る」ことが持続的な取り組みを考える上で大切
- 「生きる力」をつける学び。大人がしっかり生きること、正しい背中を見せること
- 学ぶ機会を得られない人たちに対してこそ、社会教育の機会の提供が必要
- 人と人のつながりがインフラ、今後築いていくもの
- 「安心」「話せる」「大丈夫」という状態をつくっておくこと。受け入れられている雰囲気づくり
- デジタルは外に出るのが難しい人ともつながれる。便利、楽しいことを知ってもらう
- 市民の力がベースにあって物事が豊かになる。豊かさやウェルビーイングは成果
- 自分が幸せでないと他人を幸せにできない。
他人にしてもらうのではなく、自分に何ができるかということが大事
- 人材不足は社会全体の困りごとなので、
まちづくりへの参画の仕方やつながり方を時代に合わせて変えていく必要がある。

●生涯学習に関するキーワード

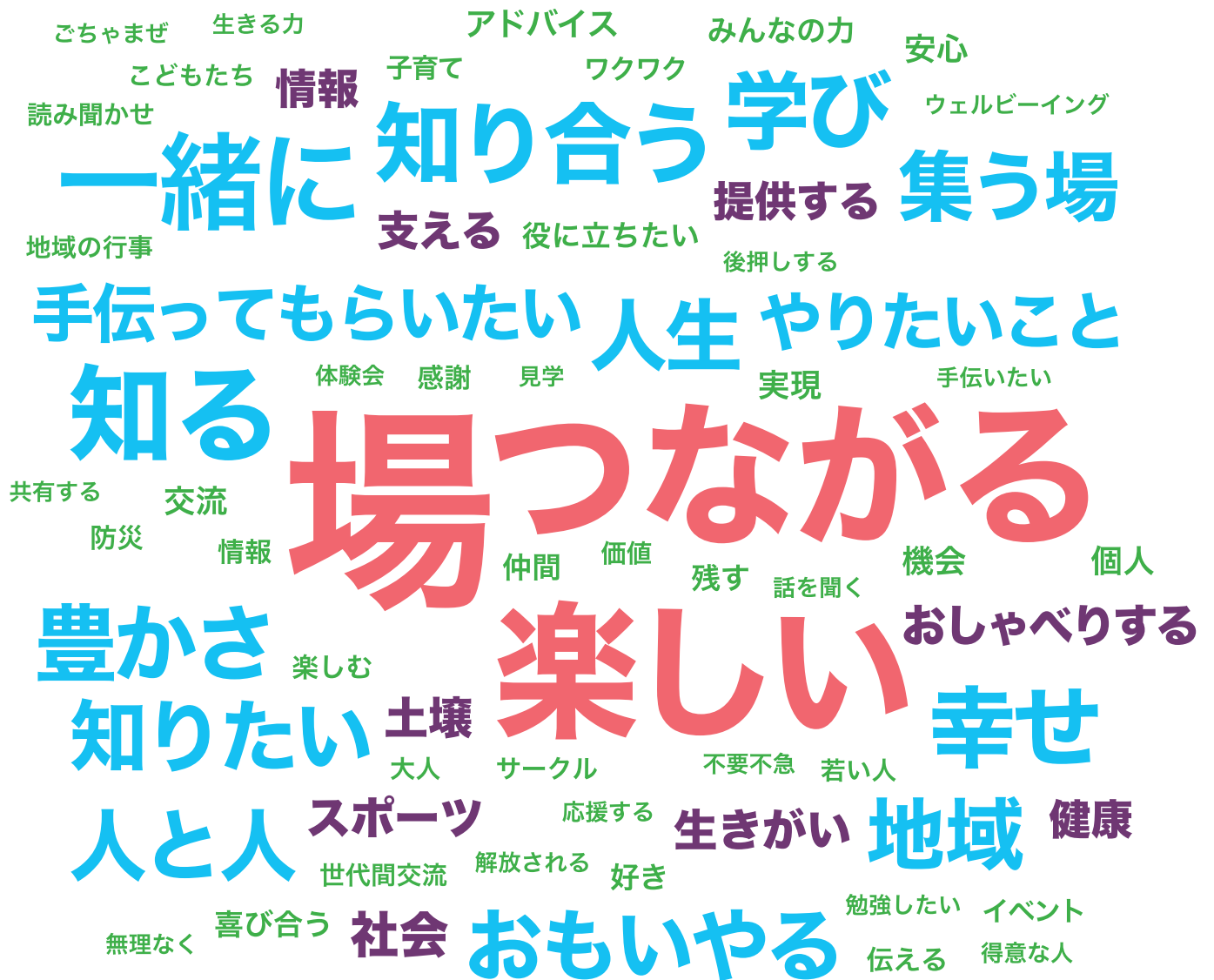
- ・楽しい
- ・ワクワク
- ・無理なく
- ・本物の体験
- ・若さは力
- ・動機付け
- ・アクセス
- ・雑談
- ・楽しさ
- ・ふらっと
- ・共通の話題
- ・仕掛け
- ・混ざり合う
- ・おせっかい
- ・集まる場
- ・直接経験と間接経験
- ・行政らしくない仕掛け
- ・やりたい人を応援する
- ・好きなものが似ている
- ・地元で”好き”がある
- ・潜在している市民の力
- ・なんとなく気に掛ける
- ・顔見知りがいたら安心
- ・チャレンジと活躍を応援
- ・豊かさの価値はそれぞれ
- ・つながりを意図的に作る
- ・市民活動コンシェルジュ
- ・応援する周りの雰囲気
- ・現役世代に合った集まり方
- ・残すものと変えていくもの
- ・仲間がいたら早く成長できる
- ・つながる
- ・世代間交流
- ・世代間格差
- ・恩返し
- ・感謝と共感
- ・いつでも
- ・ごちゃまぜ
- ・口コミ
- ・場と機会
- ・多様な人
- ・誰でも
- ・おせっかい
- ・やりたいもの
- ・世界が広がる
- ・きっかけ×場
- ・地域を知る努力
- ・自由に遊べる場所
- ・こどもを巻き込む
- ・情報発信の難しさ
- ・民間資源の活用
- ・価値観の共有
- ・豊かさの尺度
- ・つながりは重い
- ・ご機嫌でいること
- ・誘ってくれる人
- ・助け合えるしくみ
- ・まずは知り合う
- ・きっかけづくり
- ・正しく知ること
- ・好きなこと、得意なことを生かす
- ・ほしいものにつなげてくれる人がいる
- ・ウェルビーイングは「みんながニコニコの状態」
- ・得意な人が得意なことをする
- ・つながるのが怖い、疲れる
- ・つながりにくい人をつなぐ
- ・出かけるきっかけ、しかけ
- ・やりたいことがすぐできる
- ・生涯学習を通して解決していく
- ・学びたいときに楽しく学べる場がある
- ・目的が見えると参加しにくくなる
- ・若いうちに多様な人に触れる
- ・今より良くなりそうという期待感
- ・参加する側から提供する側へ
- ・デジタル格差
- ・頼ってほしい
- ・自信をつけてあげる
- ・助けてもらう
- ・高齢者とこども
- ・気軽に集まれる
- ・心地よい距離感
- ・楽しい思い出
- ・居心地がよい
- ・気軽に話せる
- ・多世代一堂に
- ・廿日市人大学
- ・情報の出し方
- ・つるっと相談

● 私が考える「生涯学習」とは

- ・ 土壌を育てる
- ・ 地域内の接触機会の最大化
- ・ 学校外での学びの場所
- ・ 生涯学習
- ・ 人生の生きがいづくりと健康づくり
- ・ 仲間づくりの場
- ・ おもいやりの起業
- ・ 生きがい
- ・ 健康で長生きするための機会
- ・ あそびどころ、楽しく生きること
- ・ 人と人がつながり、共に学ぶこと(楽しむこと)
- ・ 楽しくつながる、充実した日々をおくれるようになること
- ・ 人と人がつながり、支えるために一緒に学ぶ
- ・ 好きなことや得意なことを教え合う
- ・ 新たなことを学んで、自分を成長させていくこと!
- ・ 自分自身で楽しく、学ぶ、使えるスキルを高めること
- ・ 生涯にわたり学び・学習していくこと
- ・ 地域社会への貢献に向けた能力の向上
- ・ 一度しかない人生、学ぶことでより豊かな人生になるために必要なもの
- ・ 主体的な学び、人生を充実させる学び
- ・ 人として暮らしていくために必要不可欠なもの
- ・ 自分の住んでいる地域の問題を考え、学び、実践していくこと
- ・ 学び→活動→健康・意欲の継続・地域に還元などの好影響
- ・ プロセスを通じた良好な人間関係づくり
- ・ 学んだことが自分の中でつながっていき、さらに関連する事柄に興味湧き、学び続ける
- ・ 「個々が生涯にわたって、学びを通じて、成長を実感することにより個人が輝くこと」
「個人の心に余裕が持てることで、周りに目を向けることができること」を作るためのさまざまな学習行為
- ・ 一人ひとりの興味関心を生かしながら、さまざまな場所で、さまざまな機会を捉えて、時に多様な人と一緒に学びつづけること
- ・ 人生に豊かさを与えてくれるもの
- ・ いつからでも学べる活動
- ・ 学びを通じた地域課題解決
- ・ 公共善
- ・ 好奇心
- ・ 現役引退後の趣味的活動
- ・ 人生を楽しむ学び
- ・ 人生のヒント

● みんなが「生涯学習」から連想したワード集

策定プロセスの中で関心の高かった言葉や多く現れた言葉を組み合わせて作成したイメージ図



発行：廿日市市教育委員会生涯学習課

〒738-8501 廿日市市下平良一丁目11番1号

Tel 0829-30-9203